

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502470		
法人名	医療法人社団高台病院		
事業所名	グループホームはしどい 2F		
所在地	札幌市豊平区美園3条8丁目4-5		
自己評価作成日	平成29年4月20日	評価結果市町村受理日	平成29年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日スタッフが買い物に行き入居者様には手作りで新鮮な食事を提供しています。
 ・職員一人ひとりが入居者様と生活を共にしていることを意識し、落ち着いた環境で寄り添いゆつくりとコミュニケーションを図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170502470-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年5月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「はしどい」は市中心部から近距離の音ながらの区割りそのままの住宅地に在り、グループホームが必要と認識され始めた同時期に創設されて以来、14年を迎えている事業所である。玄関に掲示されている事業所の理念である『皆様と一緒に協力し合い一人一人が自然体でいられる場「新しい我が家」をめざします』の元、鉄筋3階建ての2階、3階にそれぞれに1ユニットずつ計18名の利用者と、そして1階の障害者6名と生活を共にし、それぞれの「新しい我が家」を目指している共生型グループホームの先駆的事业所でもある。当事業所の運営母体は医療機関であり、利用者に対する医療及び健康管理は医師、看護師、職員間で緊密な連携がとられ、職員の日々の見守りの中で最大限に図られている。当事業所の所在地は住宅地とは言え、マンション、アパート等も多く存在し、地域性が多少希薄な面もあるが、近在の神社等の祭りに利用者が積極的に参加し、又事業所主催の夏祭り、諸々の行事には地域の方々の参加も得ておこなわれている。職員は理念の実践の為、ミーティング等で年間、月間目標を定め、勉強会等を精力的に行い目標の実行に向けての努力を怠ることなく、利用者の安全、安心に日々寄り添っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示し共有している。日々の業務で常に理念を意識する事は難しいができるだけ実践につなげる様努力している。	事業所独自の理念「新しい我が家」づくりへ向けて、理念を玄関に掲示し全職員が共有している。又、理念の実践の為に年間、月間目標を職員自らが定め、日々努力、研鑽している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加をしたりしている。	事業所が在る地域は、共同住宅等が多く地域活動は希薄ではあるが、利用者は地区の神社等の祭りに積極的に参加し、又事業所の夏祭り、行事等には地域の方々の参加も得、地域の福祉を考え、担うグループホームとして発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、認知症の方についての対応方法や支援の工夫等を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加して頂いた方に毎回意見を伺い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は家族を始めとして、地区包括センター、地域性が希薄な中でも町内会長、民生委員の参加を得て、2ヶ月に1度行われ、事業所の運営、防災の方針等について話し合い、議事録は家族に送付され、利用者へのサービスに反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導、管理者会議等に出席している。	市・区との連携はケアマネジャーが中心となり、情報を交換、管理者集団実施指導に参加、助言を貰い、行政と事業所との協力関係を強くしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必ず年に1回は「身体拘束をしないケア」について全スタッフが正しく理解できる様勉強会を行っている。それらを踏まえた上で夜間等職員の数等の関係で玄関の施錠をしている。	身体拘束をしないケアの実践では、言葉遣い等はそこで注意するようにし、年間を通しての勉強会を行い、フロア間で情報を共有し職員からの提言も受けている。職員は利用者の行動を尊重し、常に寄り添うことに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会等、虐待の防止について学ぶ機会を持ち、日々虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は必ず勉強会で学ぶ機会を持っているが、しっかりと理解しているスタッフは少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を契約時に行い、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関に意見箱を設置している。 ・面会時や書面で、意見要望があれば都度お伺いしている。	玄関に意見箱を設置し、家族来訪時に意見、要望等を聞き、又利用者の生活の様子、健康状態は担当職員が月1度のお便り、季刊で「はしどい便り」を家族に送付、報告し利用者へのサービスに反映させている。	意見、要望を意見箱の設置、来訪時の家族からの聴取等で行っているが、サービスに対する満足度を確認、そして職員の意識の向上の為に、お便り等を利用してのアンケート調査を行い、更なるサービスの質の向上に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロアミーティングや全体会議、普段の業務中等に職員の意見、提案を聞き反映させている。	フロアミーティング、毎日の申し送り等の中で利用者の情報を開示、共有し、その介護の方策に関して管理者及び職員が積極的な提案、意見交換等を元に、利用者へのサービスの反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	把握には努めているが常に人手不足である。また、給与面で十分には反映されていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度は人手不足もあり、外部研修に参加する機会が作れていなかった。内部での勉強会は毎月行っているが内容の充実等をはかっていく必要がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は機会(管理者会議等)があるが、スタッフは機会がほとんどなく今後の課題である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時にはご本人の気持ちに十分配慮し、要望等をお聞きしできるだけ安心して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時等に要望をお聞きし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にできるだけ情報収集を行い必要な支援を見極めている。他サービスとして訪問看護やリハビリを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちに配慮しながら、無理をしない程度に出来る事をお願いするなどし、関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には毎月お手紙を出し近況報告をし情報を共有している。面会時にはできるだけゆっくりと過ごして頂く様配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係が途切れない様な支援は、継続できていない。	利用者はそのほとんどが他地域から集まってきており、馴染みの人の来訪は途切れがちとなっているが、職員は「お便り」「はしどい便り」等を使って支援へ向けての努力を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの機会等に入居者様同士が関わり合いを持てる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後はあまり関わりはない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご希望や意向を確認し、毎月のフロアミーティングや日々の中で都度検討している。	職員は日々、利用者との会話を重視し、介護記録も含めて確認し、又本人が困難な場合は家族からの情報を得て、利用者個々の支援ノートを作成し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人よりお話を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録物や申し送り等で全スタッフが現状を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を基に、チームそれぞれの意見やアイデアをできるだけ反映した介護計画を作成している。	利用者本人は勿論、家族の意見も聴取し、管理者、担当職員で長期目標を設定し、4ヶ月毎に検討、見直しを行っている。又、常に寄り添う担当職員が短期目標を設定し、毎日その評価をし長期目標の達成へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他、申し送りノートや支援ノート等を活用し情報共有しながら実践、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関や他専門職のアドバイスを受けながら連携をはかり、その時のニーズに合わせて対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加をしたり、お花見や公園への散歩等の他、民生委員や近隣住民の方のご協力等、人的資源も活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と週1回の歯科往診で適切な医療を受けられる様支援している。また、それぞれ個人が希望されるかかりつけの病院があれば入居後も継続して通院している。	母体の医療機関が月2回の往診診療を行い、職員の看護師も週3日以上勤務し、利用者の疾病治療、健康管理を行っている。希望によりかかりつけ医にも受診し、医療機関同士の連携をつくっている。又、週1回の訪問歯科も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、時間を問わず看護師に報告、相談をしながら常に情報を共有し、適切な看護を受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャーを中心に病院関係者と相談、情報交換を行い関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には事業所でできることをご家族様に説明をした上でご本人、ご家族様の意向を考慮し話し合いをしていく。	当事業所では過去において看取りの実績はあるが、人員不足の為に現在は明言できず、家族とも相談することとなっている。だが、事業所としては医療機関も含めて情報を共有し、利用者本人、家族の希望に添った看取りの方針に向けての努力を継続している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングの際等に確認を行い備えている。また、各フロアにフローチャート(マニュアル)を掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回火災時の避難訓練を行い地域の方々にも協力して頂いている。 ・年に1回震災の避難訓練を実施している。	当事業所では、夜間を想定した年2回の避難訓練の他、年1回震災の自主訓練を行っている。避難訓練には地域の方にも参加してもらっているが、地域指定の避難所が遠いという問題を抱えている。水を始めた備蓄品は常に常備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分に配慮し常に節度を持った対応を心掛けている。	日常において、名前を呼ぶ時には苗字を必ず“さん”付けで呼ぶこととし、人格の尊重を損ねることのないように配慮している。又、入室及びトイレ等における声かけもプライバシーに配慮し、常に慎重を期している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表しやすい環境、関係づくりに努めている。できるだけ自己決定して頂けるような関わりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人ひとりのペースを大切にしているが、職員の都合を優先してしまう場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に洋服を選んで頂いたり、その人らしいおしゃれが出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・それぞれの方の誕生日にはお好きなメニューを聞き取り入れている。 ・食後の片付けを入居者と一緒に行っている。	食事の献立は職員がつくり、職員の調理員が毎日地元の米屋等に食材を買いに行っている。職員も利用者と共に、同席同食とし、利用者は後片付けの手伝い等をして毎日の食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ支援し摂取量等も把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている。入居者の方の状態により見守り、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの方のパターンをつかみ時間で声掛けしている。 できるだけトイレでの排泄を心掛けている。	トイレでの排泄を基本とし、極力オムツの使用を減らすこととしている。頻尿などの情報は職員が共有し、ケアチェック表を元に時間、表情、動作等から人格、プライバシーに配慮した声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整の他、予防として乳製品を摂ったり水分、運動等を多く勧めたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのご希望に副う事は難しいができるだけ入浴を楽しんで頂ける様月に1回温泉デーを設け、入浴剤を変えいつもと違ったお風呂を楽しんで頂いたりしている。 拒否のある方は時間や日を変え柔軟に対応している。	入浴は週2日以上として、利用者の希望に添うような時間を実施している。希に拒否される利用者もいるが、その方の体調等に配慮して入浴している。月に1回、“温泉デー”として、入浴剤を使用して利用者を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の習慣やその時々状況に応じ、安眠できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は誤薬がない様に2重、3重のチェックをしてから服用して頂き、飲み込むところまで見守りをしている。目的や副作用は、わかっている薬と、理解の不十分な物がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できるだけ個々に合ったお手伝いや趣味活動等をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を把握していても実現する事は難しく、全員の支援は出来ていない。ご家族様にも協力して頂き外出支援している。	外出は、天気の良い日に事業所周辺の川沿いの散歩や買い物を中心となっている。季節によって、経営母体から車両を借り、花見や動物園等に出かけることもあり、随時ドライブ、家族との外出の機会を持つように努力している。	利用者が希望する時に、いつでも外出できるようにしたいと思っはいるが、事業所には軽自動車1台しかなく、気軽には外出ができない状態となっている。利用者の外出の機会を増やす為に、全員又は多数名が同乗できる車両を常備し、常に利用者の外出への思い、要望に寄り添うことができるようになることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお小遣いは事務所で預かっており、必要時にはいつでも使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人よりご希望があればいつでも手紙のやりとりや電話をすることができるようになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節感が感じられるような装飾をしており、窓は大きい為陽の光が入る様になっている。常に清潔を保ち、湿度、温度等にも十分配慮している。	室内全体が、明るく清潔感に溢れ、窓も大きく暖かな日差しが差し込み、利用者はそのリビングで食事をし、一人ひとりが思いのままに寛ぎ、ゆったりとした生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合う方向士隣に座って頂いたり、工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を居室に置かれたり、好みの物を壁に貼っている方等もいる。	居室は、6畳程の広さの中にベッド、整理ダンス、ロッカー等、そして利用者の馴染みの物を置き、壁には絵画、写真等を飾り、職員が見守り、寄り添う中で利用者の安全、安心の「新しい我が家」となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や食卓の自分の席を認識しやすいよう貼り紙をしたり、できるだけ自立した生活が送れる様工夫をしている。		